Fun with English
2020 春号
英語教育 スピーキング

巻頭特集

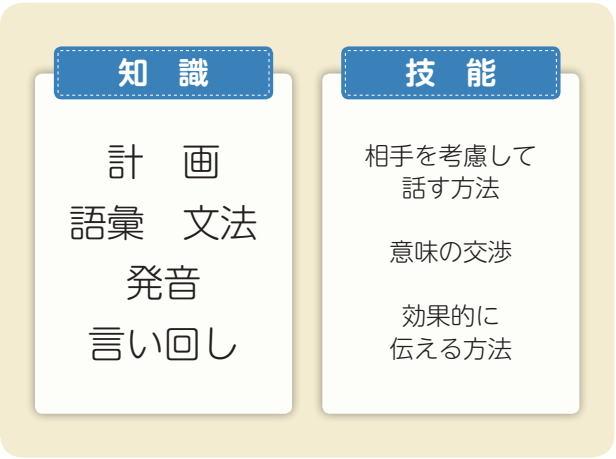
スモールトークでいきいき楽しいスピーキング活動を！

籔田 由己子（清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科・教授）

2020年度から小学校で、2021年度から中学校で新たな学習指導要領が全面実施されます。小学校では3年生から外国語活動を始め、5年生からは教科になります。そこには、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に、「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」が加わります。「やりとり」とは、相手との会話で場面に応じてキャッチボールができるような力、「発表」は人の前で自分の考えをわかりやすく伝えられる力で、どちらも即興で話すことが求められるようになります。これらの変化に対して、スピーキング活動を授業でどのように行っていったらよいのか考えてみましょう。

スピーキング力とは

スピーキングには様々な能力が必要とされますが、大きく分けて「知識」と「技能」が必要です。知識には何を話すかに関する計画、語彙、文法、発音、言い回しの知識などが含まれます。技能には、話の展開を意識して相手を考慮しながら話す技能、話す分量を調節し意味交渉をする技能、限られた時間の中で効率的に意思を伝える技能などが含まれます。これらは、車の両輪のようなもので、どちらかが欠けていてもスピーキング活動は成り立ちません。語彙や文法の知識をわかったつもりでいても、いざ話してみると思い通りにいかないということはよくあることです。車の運転は実際に運転してみないとできるようにならないのと同じように、スピーキング力は知識だけではつきません。スピーキング力はスピーキング活動を通してでなければ上達していかないのです。



KEIRINKAN

スピーキング活動を難しくする要素

スピーキングに対して苦手意識を持っている生徒もいます。その背景には次のようなことが考えられます。1つ目は話すことへの不安やストレスです。間違っていたらどうしよう、通じなかったらどうしようという思いが先に立ち、言いたいことはあるのに言えない場合です。また、相手からどんなことを聞かれるのかなど予測がつかない事態にプレッシャーを感じることも少なくありません。このような場合には、コミュニケーションしようという意思(willingness to communicate)が弱められ、相手とのコミュニケーションが成り立ちません。これは主に技能面に問題があります。2つ目は、話したいこと自体がわからない、英語で何と言ったらよいかわからないという場合です。これには、話す話題が生徒にとって親密度が低い、発表に使う語彙が難しすぎる、背景知識がないなどが考えられます。こちらは主に知識面に問題があります。

これらを取り除いていくには、日々の積み重ねが必要ですが、これらの要因は裏を返せばスピーキング活動を促進する要素となるのです。不安が大きくプレッシャーがあるのであれば準備の時間を十分とる、自信がないのであれば、生徒の発話の良い点に対してたくさんのポジティブなフィードバックを返して自信をつける、生徒たちになじみがあり日本語では話すことができるテーマを選んでみるなどの工夫ができるでしょう。

スピーキング力をつけることは、スポーツと似ているとよく学生に話します。少しずつでも毎日練習する。基本的な技術を繰り返し練習する。例えば、バレーボールであればトスやレシーブのような基礎練習をしっかりする。しかし基本的な力だけでは不十分なので、総合力を必要とする試合をすることも必要です。学生達に中学や高校の部活を思い浮かべてごらんというと、彼らは納得することが多いです。



帯活動のスモールトークを有効活用

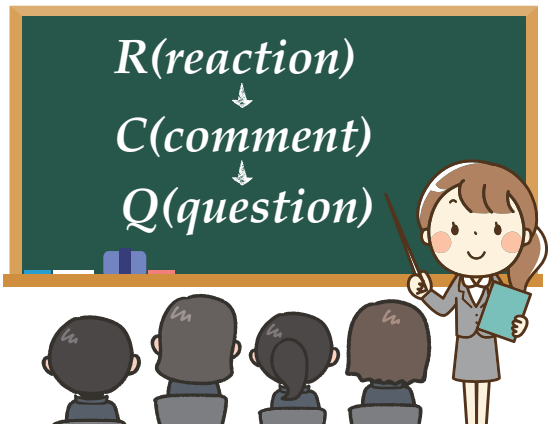
それでは、どのように練習をしていけばよいのか、スモールトークを取り上げてみていきましょう。帯活動で行うスモールトークは基礎練習にはぴったりです。スモールトークを行うにあたって、いくつかポイントを挙げたいと思います。1つ目は、既習の表現や語彙、文法項目を繰り返し使えるということです。繰り返して使っているうちにフレーズごと覚えて自然に使うことができるようになります。自己紹介や自分の好きなものについて話すことは小学校でも行っていますから、そこで使う、I'm from Tokyo、I'm a big fan of Otani Shohei、My favorite season is summerなどの表現はすでに知っています。そのような既習表現は積極的に使って定着を図りましょう。活動後に言いたかったけど言えなかったことを日本語で書き留めておくと、後で調べたりして繰り返し使えるようになるので、可能であれば時間を取りましょう。こうしていくことで、「知識」が増えていきます。2つ目は、生徒が話したいと思う話題を選ぶことです。そうすることで、話そうとする意欲が養われます。この話したいという意欲は、話せた！わかってもらえた！という達成感から生まれます。そしてここで養われるコミュニケーションへの意欲があれば、その後のスピーキング活動に自信をもって臨めるようになっていきます。その意味でも、話題選びは大切です。生徒の間で話題になっているもの、2020年度であればオリンピックやパラリンピックも生徒の気になる話題でしょう。また、「来週はこの話題についてとりあげるよ」と予告することで、生徒たちはネタを探し、英語で何というんだろうと考えるようになるでしょう。3つ目は、教師と生

徒だけでなく、生徒と生徒の間でも対話を行うことです。帯活動ではそれほど時間を取れませんから、生徒がなるべく多く話す時間をつくることが大切です。また、ペアを変えて行うことで、お互いに新しい情報を得ることになり、やりとりに必然性が生まれます。ここが教科書の決まったダイアログの音読練習などとは違うところで、相手が言ったことに対して対応する即興性(improvisation)も生まれます。相手と自分の意見が同じだったら、Oh, really? Me too! や、とても良いと思ったら、That's great!などの反応もできます。このやりとりを繰り返していくことで、スピーキングの「技能」も向上していきます。1回目の会話が終わった時点で、「こんな表現はいいね！みんな困っていたXXはOOというんだよ！」と短くフィードバックを入れて、2回目の会話に活かせるようにするとよいでしょう。

アイデア集なども参考に

毎回話題を考え、いろいろなことを盛り込んでスモールトークを始めるのは難しいと思っていらっしゃる先生方も多いかもしれません。そんな声に応えるように、例えば長野県教育委員会では、「中学校スピーキング活動アイデア集」を作成していますので、ここで少しご紹介します。ここには、スモールトークの流れ、スモールトークのトピック例、即興的に話す力を高める簡単なスピーチ例などが掲載されています。トピックは1学期最初のSelf-introductionから、Who is your hero? Memory of the school festival, What do you do to stay healthy? などと続き、3学期の最後にはMy best memoryについて話します。また、やりとりのコツとして、R (reaction), C (comment), Q (question)をあげています。I like cats.という相手の発言に対して、Nice! Cool! Really?などと反応し(R)、I like cats too. とひとことコメントをつけ(C)、How old is she?と相手に質問すること(Q)で、自然とやりとりが続いてきます。

また、即興的に話す力を高める簡単なスピーチ例として、教師が黒板にキーワードを書き、それを基にし



てスピーチをする活動が紹介されています。夏休みについて話す場合には、「行ったところ」「見たもの」「食べたもの」「(できたら)さらに一言」という4つのキーワードを板書します。ここでは、モデル文を板書するのではなく、キーワードを書くことがポイントです。そうすることで、その場で考え発話するという、本来のスピーキング活動に近づきます。



最後に、教師も生徒も楽しんで活動したいと思います。生徒が「英語の勉強をした」ではなく、「英語で話せた、英語を使えた」と思えるように、教師も生徒も、「へー、こんなこと知らなかった！そうだったの？！」と、この活動を通して、お互いのことをよりよく知っていく時間にしていきたいものです。

PROFILE
籔田由己子（やぶた ゆきこ）（清泉女学院短期大学 国際コミュニケーション科教授）
Monash University (Bachelor of Arts), 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻 修士(学術)。英語教育コンサルティング、コンピュータによる英語能力判定テストの開発等を経て現職。専門は英語教育、異文化間コミュニケーション。近著：In My Opinion（金星堂）

実践報告

「即興力」を高める指導
～ Speech Card を用いたペア活動を通して～

鈴木 泉（紫波町立紫波第三中学校・副校長）

1 はじめに

新学習指導要領では、従来の４領域の中の「話すこと」が［やりとり］と［発表］に分けられ、それぞれ目標が示されています。そして、そのどちらにも共通しているキーワードが「即興（impromptu）」。本稿では、生徒が英語を使って「即興で話す・伝え合う」ようになるために実践した活動について紹介します。

2 Speech Cardの作成

「シャベリカ」というカードゲームがあります。これは参加者同士が協力し合うことで対話や合意形成などを楽しむものです。54枚のトランプにトーキングテーマが書かれていて、その中から１枚引き、書かれているテーマで仲間同士対話をしたり、それぞれが１枚ずつ引いて違うテーマについて話したりして、楽しむことができます。

初め、このシャベリカをそのまま英語の授業で使おうと考えましたが、難易度が高すぎたので、新たに下記のように自分で作ることにしました。

テーマは生徒の英語力で伝えられるもので生徒が興味を持ちそうなものに変え、枚数も少なくしたカードを作り、『Speech Card』と名付けました。

3 実際の指導

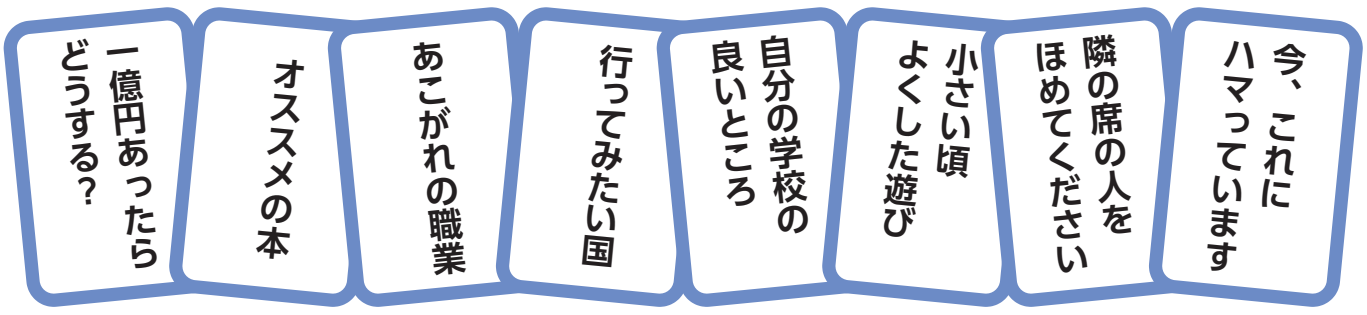
1 即興の「発表」として

授業はいつも「英語教室」で行います。生徒は教室に入ると、入口の脇に置いているSpeech Card １組とストップウォッチ１個（どちらも隣同士のペアで１つずつ）を持って席に着きます。そして授業開始までカードを使い、互いに時間を計りながら練習をします。

授業の中では次のような流れで行いました。

❶教師がカードから１枚抜いて、それを「本日のお題」として伝える。
❷生徒は全員立ってペアで向き合い、どちらが先にスピーチするかを決める。
❸片方がスピーチする間、もう片方はストップウォッチで１分間計測しながら聴く。
❹終わったら交代して行う。

どちらも終わったら座り、互いのスピーチがどうであったかを４段階評価で評価シートに書くと共に、アドバイスを伝え合います。このとき、評価の基準になっているのは、予め配布しているルーブリック。目標は「ペアで、より良いスピーチができること」。自分だけではなく、アドバイスし合い、教え合い、お互いに高め合える活動と位置付けました。



2 即興の「やり取り」として

ほぼすべてのカードでスピーチを行ったら、次の段階に入ります。「やり取り」の活動です。授業開始までの活動は一緒。授業での流れは次の通りです。

❶生徒は立って向き合い、カードを１枚無作為に抜く。それがそのペアの「本日のお題」になる。

❷番を決めて開始。1と異なるのは、1人が話し始めたらもう1人が英語で“相づち”や“繰り返し”、“質問”などを入れながら２分間対話すること。終わったら役割を交代し、同じ題で行う。

終えたら振り返りです。1と同様、ルーブリックを見ながら自分たちのやり取りについて自己評価をします。この活動の目標は「2分間でより良いやり取りができること」。スムーズに、そして自然な対話としてのやり取りができるよう、自分たちで振り返ったことを次回に活かし、共に高め合うようにしました。

3 活動の評価

1 2の活動と共にパフォーマンステストで評価を行います。生徒が活動で使っているルーブリックを使います。

「発表」のテストは教師と１対１で１分間、「やり取り」のときはペアで教師と共に2分間。生徒は教師が提示したテーマに対して即興でスピーチを行います。教師はスピーチややり取りをルーブリックに沿って評価をし、すぐにフィードバックを。より良い発表を行うためのコツについてアドバイスします。

4 活動を振り返り

今後ますます重要視される英語の「即興力」。生徒の即興力を伸ばすカギは「繰り返し」と「ルーブリック」であるとわたしは考えます。

生徒は活動を通し、同じテーマに何度か出会います。それにより「前回よりもより良い発表」「やり取りを更に長く続ける」機会を得ることができます。また、ルーブリックを生徒と教師が共有し合うことにより、生徒はより良いスピーチにする視点を身に付けていくと考えます。生徒のパフォーマンス課題にルーブリックは欠かせません。吟味して作りたいものです。

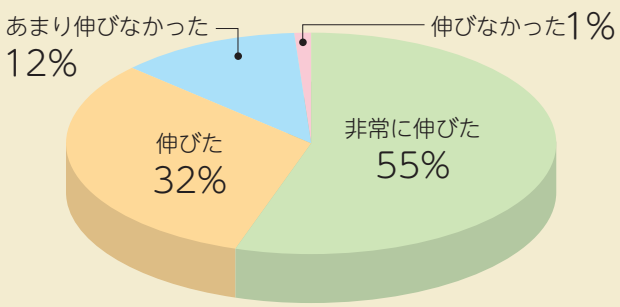
ルールブック：やりとり

評価	態度	内容の伝達	流暢さ	やりとり	
A	アイコンタクトを取り、自分から会話を続けていこうとする積極性の見られる態度である。	多少の文法的なミスはあるが、習った表現を使って、相手に伝わる内容で話すことができる。	英語使用に少々のミスはあるが、適切な発音で、声量・話す速さも的確で内容の伝達もできている。	相手の発話に対し、適切な相づちや質問、くり返しを入れて、対話を続けることができる。	質問に対してYes/Noだけでなく自分なりの情報を加えて対話を続けることができる。
B	アイコンタクトがあいまいであるが、相手に伝えようとする意欲が見られる。	習った表現を使え、自分の考えをおおむね説明し、最後まで話すことができる。	英語使用にミスはあるが、内容の伝達において大きな問題はない。	相手の発話に対して、相づちや質問、くり返しどれか１つだけは使って対話を続けることができる。	質問に対してYes/Noの応答ができ、対話を続けることができる。
C	アイコンタクトがほとんどなく、相手に伝えようとする意欲が乏しい。	習った表現を使えず、自分の考えを説明することが難しい。	英語使用に多くのミスがあり、聞き手に内容の伝達ができない。	適切や相づちや質問・くり返しを使えず、対話を続けられない。	質問に対して答えることができず、対話を続けることができない。

実際に使ったルールブック

年度末、「1年間の英語指導」がどうであったのかを生徒に評価をしてもらいます。授業で行った様々な活動が「役に立った」か「役に立たなかった」かの評価とコメントを書いてもらいます。このSpeech Cardを用いた活動の生徒の評価は下記の通りでした。

Speechの力は伸びたか



「非常に伸びた」「伸びた」と答えた生徒が合わせて87%いました。初めは長く続けられなかったスピーチが、徐々に長くなったことが、に生徒には嬉しかったようです。生徒が自身の「力の伸び」を実感できる活動を、これからも大切にし、そして広げていきたいと考えます。

PROFILE
鈴木 泉（すずき いずみ）（岩手県紫波町立紫波第三中学校 副校長）

1964年、岩手県水沢市（現奥州市）生まれ。岩手大学教育学部卒業。中学校教員として英語を教える傍ら、全国語学教育学会岩手支部長等を務める。また、2007年4月に「いわて英語教育研究会Big River」を設立。夏と冬の年2回、英語教育研究のワークショップ「英語SAMURAI DO-JO」を主宰している。英語以外では、参加型学習の研究を行い、「いわて国際理解教育研究会」の一員として、様々なワークショップでファシリテーターを務める。

Getting closer to the World

～「質問する力」を伸ばす授業づくりの一考察～

櫻田　一平（石狩市立聚富小中学校・教諭）

1　はじめに

学習指導要領の改訂に伴い「話すこと」の領域は「やり取り」と「発表」に細分化されました。英語の授業を英語で行うことが求められる中、「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」という「質」的な充実も一層求められる時代になっています。実際のコミュニケーションは一方的に相手の話を聞き、対応するだけでは成立しません。会話を続けるために「質問」をする必要があります。今回は生徒の「質問する力」を育成する目的で実施しているスピーキング活動について紹介します。

発表

即興性あり
❶ 1minute short speech（1分間スピーチ）
即興性なし
❷ プレゼンテーション
❸ 石狩PR（地元紹介）

やり取り

即興性あり
❹ Q & A & Q
❺ 1 minute short talk（1分間トーク）
❻ Guessing word（英単語当てゲーム）
即興性なし
❼ 3 hints game（3ヒントゲーム）

今回は❹の「Q & A & Q」と❻の「Guessing word（英単語当てゲーム）」について詳しく紹介します。

2　英語を「使いたい!」

子どもたちの英語を「学びたい」という意欲を高め、実際に「使いたい」と思わせるためには多くの工夫が必要になります。本校の英語の授業では「skill（スキル）」としての英語運用能力育成のため「新千歳空港フィールドワーク」を年度末の目標（ゴール）に設定し、実施しています。フィールドワークの目的は❶外国人観光客の観光目的についての調査、❷地元（石狩市）のPRの2つです。「もし、今度北海道を旅行するなら、石狩市に来てほしい」という気持ちを英語でアピールさせています。時期的にも、生徒にとっては1年間の学習の集大成といった位置付けとなり、英語学習の大きな動機付けとなっています。主に行っている「話すこと」に関わる取組を分類したものが次の表です。

3　「問い」を生み出すやり取り

「Q & A & Q」

「少人数グループ」による会話を目的とした活動です。3～4人グループで3分程度、お互いに質問をしたり、答えたりするという単純なコミュニケーション活動です。活動のルールは

1. 相手の質問に正しい文法で答えること
2. 答えに「プラス1文（1文以上）」を加えること
3. 会話の流れを意識して次の生徒に質問をすること

以上の3つです。この活動の大きな利点は普段の教室環境で「教師対生徒」という関係を壊し、積極的に生徒たちが「質問をする」ことにあります。授業で生徒が教師の質問に「答えてばかり」では、話題を展開しながら実際に会話を続けていくことは困難です。会話の流

れで気になったことを問い直し、自分の興味関心のある話題に発展させます。話している相手との関係性、会話の流れがあるからこそ「コミュニケーション」が成立します。



自然とInformation gapを生むような質問ができる（質問した相手がどう答えようかと考えをめぐらせる）ようになると活動自体も大変面白くなります。活動に慣れるまでは平易な表現や教科書の既習内容を使わせることで対応できます。会話の流れに沿った質問をできるようになるための「訓練」として取り組んでいます。

「Guessing word（英単語当てゲーム）」

英語の授業でよく設定される「道案内」や「買い物」の場面では、困っている状況や欲しいものの情報をやり取りする中で「自分にとって必要な情報」を手に入れるため、相手に質問をします。Guessing wordの活動は、教師によって提示された英単語の意味を生徒があてる活動です。どんな意味の単語なのか、生徒は教師に質問をしながら、その意味を推測していきます。出題する単語は生徒にとって「日本語では知っているけど、英語では知らない」というものを準備します。例で提示しているように、生徒自身が自分に必要な「情報」を判断し、それを聞き出すための疑問文を作らなければならず、よりコミュニケーションの必要性を感じながら活動を行うことができます。



他の生徒の質問内容によっては、臨機応変に自分の質問を変えなければいけません。より一層実際のコミュニケーションに近いやり取りが可能な活動です。

【引用・参考文献】 文部科学省（2017）『学習指導要領』

PROFILE
櫻田一平 （さくらだ いっぺい）石狩市立聚富小中学校　英語科　教諭

1986年青森県生まれ。現在、北海道石狩市にある聚富小中学校にて英語科の授業を担当。2017年度から2年間、石狩管内の英語教育推進リーダーを務める。オールイングリッシュの英語授業実践を積み重ねながら、外国語学習における小学校から中学校への接続について研究を行っている。

2020年4月
スタート予定

NEW ライティングメソッド

パラグラフライティングが学べる！
ナビゲーションブック付きスマコレが登場！



- パラグラフライティングが学べるナビゲーションブック
- ライティング課題の添削
- 解説動画（日本語版＋英語版）



英検3級～準2級レベル
語数：30～60語



英検準2級～2級レベル
語数：60～100語



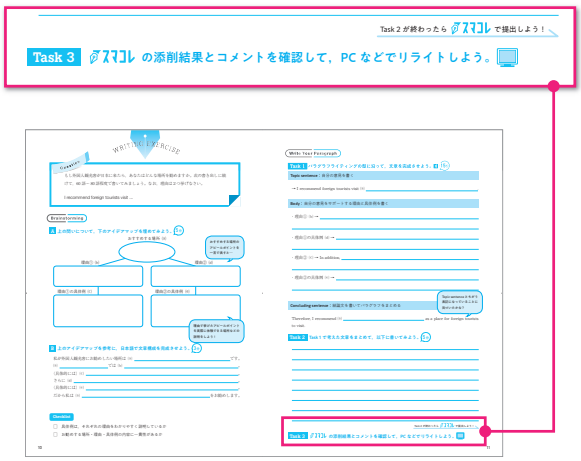
英検2級～準1級レベル
語数：80～150語

Standard



ナビゲーションブックで英語を論理的に書くためのメソッドを学び，学んだことをスマコレでアウトプット！





ご利用料金

プラン	Basic		Standard		Advanced	
	ライティング課題＋解説動画	料金(税別)	ライティング課題＋解説動画	料金(税別)	ライティング課題＋解説動画	料金(税別)
A（5題）	・英検3級～準2級レベル ・語数：30～60語 ・解説動画全レッスン見放題 （日本語版＋英語版）	1,500円	・英検準2級～2級レベル ・語数：60～100語 ・解説動画全レッスン見放題 （日本語版＋英語版）	1,800円	・英検2級～準1級レベル ・語数：80～150語 ・解説動画全レッスン見放題 （日本語版＋英語版）	2,000円
B（10題）		2,700円		3,300円		3,500円
C（20題）		4,800円		5,300円		5,500円

※制作中につき，発刊計画・内容等は変更になる場合があります。 ※ご利用期間は，ご利用開始日より年度末（3月31日）までです。
※ナビゲーションブック単体での注文は承っておりません。

Fun with English

編集・発行 啓林館東京本部 TEL(03)3814-5183(直通) デザイン・印刷 株式会社スタジオヤマト・木野瀬印刷株式会社 教授用資料

知が啓く。 啓林館
https://www.shinko-keirin.co.jp

本　　社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道 4 丁目 3 番 25 号 TEL (06) 6779-1531
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘 2 丁目 3 番 10 号 TEL (03) 3814-2151
北海道支社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西 9 丁目 1 番 2 号 サンケン札幌ビル 1 階 TEL (011) 271-2022
東海支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1 丁目 15 番 20 号 ie 丸の内ビルディング 1 階 TEL (052) 231-0125
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町 1 丁目 7 番 11 号広島 CD ビル 5 階 TEL (082) 261-7246
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 1 丁目 5 番 6 号ハイヒルズビル 5 階 TEL (092) 725-6677